



家庭の同行^{どうぎょう} 7

〜ひき出されてゆく生きる力〜

茂吉(和田重良)

- 穴のあきそうな心を「充たしてくれる」もの
- つないだ手は離さない」と信じている」こと
- あそこに帰れば迎えてくれると
- 「あんしんできる」こと

会議をひらけ

やさしそうなことは難しい

先日、相模原のくだけかけ会で「空を見上げよう」という題のお話をさせていただきました。これは『子ども版人生タネの本』(拙著)の一ページなのですが、聴きに来て下さった方から「こんなに深いお話とは予想できな

かった」と感想をいただきました。

それはそうですね、あの本は子ども向きに書いたのだし、一つの話がたったの二ページに収めなければならぬのですから、大人向けに二時間お話しするとなれば「やさしそうな題は実は実行が難しい奥がある。」というところまでお話しできるのです。

今回の『会議をひらけ』という簡単そうなたげも、実はやればやるほど奥の深いものが見え、難しい問題に当り、それに対応する実力がつくというもののなのです。

すでに、この提案を実践して下さっている「くだけかけ家族」もたくさんあるので、このことの大切さを実感して下さいと思っています。

親を親とも思わない子

最近、「大人を大人とも思わない」「親を親とも思わない」ちよつと困った子たちがずいぶん目につきます。

学校の先生に対しても「誰に言っているんだろう」と思うほどムチャクチャな言葉で、ものすごく横柄な態度でいる中学生や高校生

和田重良言葉抄

しあわせについて(二)

幸せにも上等下等がある。欲求満足による安定状態の持続時間の長短によって、一応判断してよいと思う。食欲性欲の満足による安定状態は短い。地位、名声を得た満足感はいくらも持続するし、世のため人のために尽した満足感さらさら持続する。宗教的安定は生死を超えて永続する。下等な幸せも幸せであるから強いて排斥する必要はない。しかし、われわれ人間はなるべく上等の幸せをねらうべきだ。ところが上等な幸せほど手に入りにくい。それを得るのに途中の苦しみが大きいのが普通だ。そこで、人間においては、苦しみと不幸とは同じでな

を見かけるのです。小学生にもたまにいます。勿論、大人が悪いのです。こういう子たちを大人が作ってしまったのは間違いありません。社会全体が崩れていると言っても過言ではありません。

大人が崩れておいて、「親を尊敬すべきだ」と教えたって何の効果もありません。

お母さんやお父さんを、メイドか召し使いか奴隷かと思っているような子もいます。中には叩けばお金の出てくる「打ち出の小槌」だと思っている子さえいます。

どうしてこんな子ができてしまうのでしょうか。小さい頃からの何かが影響しているに違いありません。

一人一人がどれほど大きな価値を持っているかを教えていない、いや教えるというより伝えていない、ということが「家庭崩壊」につながるのです。

一人、一人の存在をしっかりと確認

先月号にも書きましたが、「家庭」というのはいずれば解散していく可能性を含んだものですが、「家族」はそのつながりは切れない

い筈のものなのです。それなのに「バラバラ」になってしまふのです。

「バラバラ」と「自立」とではまるで意味が違うのです。

「親を親とも思わない子」のいる家庭では、子どもが親をつかまえて「テメエ」などと言っています。「おまえがオレの飯を作るのが遅いから学校行ってやんねえ」なんて言われて常に冷蔵庫にこの子の好きそうな和洋中華の材料を準備していた、なんて人もいます。

どこか変ですよ。でも、こういう人の家庭とか家族とかは「どこがおかしいのか解りません」とおっしゃるのです。

何よりも、子どもが生まれたら、一個の人間としてその存在をしっかりと確認していかなければなりません。「この子は大切な個を持った人格なのだ」と確認するのです。

親の思い通りにするために、「親と子は別々の個として育ち合っていく」(同行の原則)を忘れて、子ども自身がやって満足していくべきプロセスを奪ってしまったのです。

その結果、「親は自分のためにいる」という大きな誤解をし、親は大きくなってしま

いことがわかる。同時に苦しみは苦しみとして価値があるのではないこともわかる。教育は子どもの幸せを願ってやるのであるならば、なるべく上等の幸せに目をつけるべきだ。目の先の幸せに眼がくらんで、一生の幸せを犠牲にさせるような愚かなことはしてやりたくないものだ。よく噛みしめてみる必要があると思う。

た子が急に扱いにくくなるので急激にバラバラ感を深めていくのです。

キチンとおちついて向きあう

そこで、「くだけかけ」では「家族会議をひらこうよ」と時々提案しているのです。

その方法や注意点は「親と子の関わり方提言」(事務所の人が手作りして500円でお頒けしています)を見ていただくとして、キチンとおちついて向き合ってみることは家族一人一人にとって「存在を確認する」よい機会になるのです。

- 個の集まりが全体を作るのだと確認
- 子どもの呼び方、夫婦間の呼び方を見直せます
- 生活のリズムのポイントができます
- 心の姿勢を整えるチャンスになります
- 家族の行動が明らかになります

絶対にしてはいけないことや、続けられない原因は、「家族会議」と称して「親の押しつけ」をすることです。押しつけがましいことは家庭が明るく楽し

くならない元となりますよ。どんなにお父さんが立派でも、偉くても、子ども一人一人の存在を大切にしなければ、尊厳も威厳も生まれて来ないのです。

家族会議は「ミーティング」と言っても「打ち合わせ」と言っても「予定報告会」でも何でも良いです。適当に各家庭で名前を決めて下さい。ちなみにわが家は「常会」という昔ながらの呼び方です。

「〇〇家くだけかけ会」でもいいですよ。くれぐれも「お説教」の会になりませんようにして下さい。やり方でわからない所は遠慮なくお問い合わせ下さい。

一口メモ

つ一人一ご面
 ところも、す
 いうとも、の
 家族とっては
 家庭と存在は
 て、大切にキ
 た、ちの存て
 たち、に重く
 人、の存て
 だ、の重く
 向、かから
 と、対等